

東陽上村アドバンス 株式会社

設立 昭和3年4月

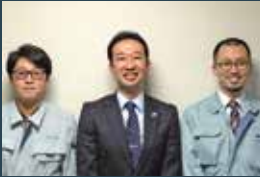
従業員数 64名

代表者 代表取締役会長 上村 哲朗

代表取締役社長 澤田 満

地域社会のパートナーメーカー 「仕事を通して、幸せをともに…」

工場であらかじめ形成された製品「プレキャストコンクリート製品」の製造および販売を行う。土木工事資材の販売も手がける。



技術部課長 對木 啓克(左)
開発・技術部 上村 哲平(中央)
総務部 澤田 一輝(右)



導入により現場作業が大幅に効率化された

課題に向き合い、新たなシステムを取り入れる契機となりました。

本事業は、自社の課題と向き合い、解決に向けて新たな手法を取り入れる契機となりました。今後も柔軟にシステムを活用し、現段階ではICT活用に積極的とはいえない土木業界全体への波及にも繋がれば良いと考えます。

ボトムアップで自社の課題解決に向けたIoTシステムを導入 ～電子黒板・写真管理ソフトを用いた業務削減計画～

現場の課題に向き合い業務効率化を実現。

プレキャストコンクリート製品の製造及び販売を手がける東陽上村アドバンス株式会社。土木工事資材のみならず、マンホールや点字ブロックなど、身近な製品も取り扱っている。近年の土木建設業界では高齢化に伴う人材不足が大きな課題とされ「i-Construction」の施策のもと、ICTの利活用による業務効率化に注目が集まっている。同社でも生産性向上・業務効率化を目指し、IoTシステム導入に着手した。

同社では工程管理のため、現場名などを手書きで記した黒板とともに、工程ごとに現場写真の撮影を行う必要があった。手書きの作業は時間がとられるだけでなく、書き間違いや読み間違いなどの伝達ミスも起こりやすい。手作業による写真データ管理にも、多くの時間と人手がかかっていた。

今回、工事写真管理システム「蔵衛門Pad Tough」および「蔵衛門御用達2020std」の導入によって、あらかじめ基礎情報を入力した電子黒板を作成しておくことが可能となった。導入後は1現場あたり約100分、2020年の実績としては36現場で約60時間の削減を達成。また、データ管理作業が自動化されミスの低減にもつながった。

信頼を守りながらも革新は恐れずに。

システム導入について、社内の理解を得ることは簡単ではなかった。業界では馴染みの薄いIoTによる改革に懐疑的な社員も多かったようだ。事業を担当した開発・技術部の上村さんたちは、丁寧な話し合いを重ねて事業を進めていった。

実は現場によっては「改ざん防止の観点から手書きの方が信頼できる」と、これまでの慣習を好む向きもあるようだ。今回導入したシステムには改ざん防止機能もあり、安全性は高い。より多くの場面で利用できるようクライアントの理解を得つつ、同社では今後もシステムを積極的に活用していく予定だ。

業界に類似システムが普及していくことで抵抗感も減っていくだろう。上村さんたちは、それが長期的には業界全体の生産性向上と業務効率化に繋がると考えている。



工事写真専用タブレット「蔵衛門Pad」を採用



(参考画像)

札幌市白石区菊水2条3丁目1-34

TEL 011-821-1404

FAX 011-821-7439

<http://www.t-u-advance.jp>

